

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるように」の理念は職員全員が理解しており、その人らしく暮らせるように環境作りを日々実践している。	利用者への接し方から、一人ひとりの尊厳を守り、その人らしく暮らしている様子を実感した。職員と管理者が理念を共有化し、実践されている証しである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しい場所に移って約2年、毎日の散歩時に声をかけていただいたり、推進委員さんをとって徐々に地域に溶け込んできている。	開設2年目であるが、まだなじみが薄く、毎日の散歩を日課としているも、行きかう人に声をかけてもらう程度である。	行事やイベントの際には来賓として招く等、少しずつ地域住民の一員としての関係を強化してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	所長が地域の依頼で講演活動をしている。研修者等を毎日受け入れている。認知症の理解や支援に貢献していけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。民生委員さんより地域の交流や地域のことについて話がある。	民生委員、地域代表、家族、行政を交え、定期的に開催し、ごみ集積場や野菜畑の活用効果について話し合いが持たれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡・相談を行っている。運営推進会議にも毎回出席されている。	地域の医療との関わりや訪問看護について相談するなど、常に連携を図り協力体制がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間時以外、玄関に鍵をかけることもなく、個室にも鍵がない。ベットの転落防止に使用するのみ。ドラックロックもしていない。	玄関や個室に鍵をかけることもなく、入所前は内服をしていた利用者も職員の対応で、落ち着いた生活を送れるようになった。利用者どうして助け合う姿がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護の内容や言動が虐待にならないよう職員全員が気をつけている。会議で話し合いをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等、自主参加している。全職員の学習が十分とはいえない。成年後見については対象の利用者もなく支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、解りやすい説明をするよう心がけ、質問には丁寧に応じる。不安や問題点、相談等あれば来所時、あるいは電話等でいつでも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会時、利用料持参時、その他、いつでも受け入れている。	意見箱が設置されているも投稿はないが、利用料の支払いで来訪された際、意見を聞く等つとめている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見、提案が出され、運営に反映できている。	毎月末に開催し、意見を聴き運営に反映させている。和やかな会議で意見も出しやすい環境と職員より聴取。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や休憩、手当等、他事業所に比べ整備されていると思う。(12.5%)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会、研修会等への参加、県の委託で緊急雇用創出事業(トライアル雇用)で学生職員を雇用した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信グループホーム交流会があり参加している。当番制なので主催するときもある。研修会等への参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に心がけ利用者が話しやすい環境、雰囲気作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護の労をねぎらい、今までの話を聞く。毎月のお便りで利用者の様子をお知らせする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	通院時の送迎を行っている。その他必要な場合は支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員としてできることはやってみよう、感謝の意を表す。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして、できる家族にはやっていただいている。(床屋、通院、外出時の運転等)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家、店、場所へ行き、馴染みの人に声をかけていただく。多くの馴染みの人が面会に来てくれる。	散歩の途中で声をかけてもらったり、近所のコンビニで買い物をして、馴染みの関係を築きつつある。家族から差し入れの置物や写真等大切にしていた物を大切に扱い、掛かり付けの理美容院を利用するなど、馴染みの関係が切れない工夫が感じられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の話し合いが日々行われている。また、着脱等に手をかしてあげている。利用者同士が気遣う言葉が聞かれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所、又は亡くなられてからも家族が訪れてくださり、何年も続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で本人の言動から、思いや意向を把握できるようにしている。	自己の思いを表現できる利用者が多く、意向を尊重し、対応している。園芸好む利用者には部屋でも継続して行えるような環境を提供したり、家事等も積極的に参加してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前の入院病院、入所施設、本人、ケアマネ等から様子を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルをとり体調、行動を観察して記録している。また、職員会議等での検討も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、その他必要関係者と話し合い支援計画を立てている。職員会議に回り全職員の周知をしている。	職員会議やカンファレンスに出された意見を参考に介護計画の作成をしている。本人・家族・職員の意向を総合した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し情報を共有し、ケア計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族から要望があればニーズに応じて必要なケアを行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、社会福祉協議会、包括支援センター、地域医療機関の支援、ボランティアの支援。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医があり、適切な受診ができ往診もしていただいている。	地域の主治医・かかりつけ医との、連携を図りながら健康に注意を対応している。非番の職員が薬取りを行っている。	薬取りは、職員のインフォーマルサービスで行われているが、勤務との関係を確認され、適切な処遇を検討されたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と訪問看護の連携がとられており、適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院児には、家族と供に情報交換、相談を行ない、病院関係者とも良い関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期になった場合の意向は前もって家族に尋ねてある。本人のためにどうしたら良いか主治医、家族と相談し本人の意向に合った支援に繋げていく。	利用者家族と週末期のみとりについて交わした書面がある。病院では対応できない患者様を往診と訪問看護で看とった例もある。一方、夜間等の医療行為については対応しきれない場合もあり、理解をお願いしている。	以前、職員全員で体験研修を行い、不安のない支援体制を確立した。今後も医療との連携を強化し、利用者家族が望む終末期の支援をされたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会への参加を行っている。マニュアルにはあるが、定期的訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を実施している。地域の運営推進委員さんにも協力していただいている。	避難訓練は毎月実施。年1回は消防署員も加わり訓練を実施している。スプリンクラーの設置や耐震の構造など防災対策ができています。	夜間の対応や避難経路、また水害も懸念されることから、更なる協力体制の整備を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室へ入る際、声かけをして了解を得る。人生の先輩として、クライアントとして言葉遣いに注意して対応している。	それぞれの個性を尊重し、利用者どうしの相性等も研究され、細かい配慮の中から、利用者が落ち着いて穏やかに生活されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見を聞いたり、思いや希望を表出できるような声かけの工夫。 散歩に行くかどうか自己決定により行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をしたいのか、どの場所に居たいか等、その人の希望に添った支援をしている。 例えば、ゆっくりと食事をしたい人には、自分のペースでゆっくりと食べていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着こなしは自由にさせていただき、服、帽子等でお洒落を楽しんでおられる。髪の毛も個々の好みで長くしたり、パーマをかけたりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	要望を聴き献立に取り入れている。台所がそばにあるので、煮たり焼いたり匂いにも食欲をそそられる。野菜などの皮むきをしたり、切る等の準備から片付けまで行っている。	利用者の好き嫌いやこだわりに対してじっくりと取り組んでいる様子が伺える。調理や配膳に参加してもらったり、片付けをお願いしたり、利用者どうしも協力し和やかに食卓を囲む姿が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を日々心がけている。 摂取量を記録して、栄養を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、自分でできる人には声かけをして、出来ない人には職員がお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレを使用したり、トイレ誘導を行ったり、個々の排泄にあわせた支援をしている。	本人の尊厳に配慮し、自立度に合わせた介助や誘導、ことばがけを行っている。また、トイレの出入り口はカーテンでの仕切りがされており、利用者のプライバシーの配慮と使いやすさの両面を考えた対応がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、水分量の多い料理の工夫。散歩、体操等、なるべく体を動かせるよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番もあるが、声かけをして入りたい人に入ってもらえる。希望によりディサービスの温泉に行っている。	施設内の入浴は週2回を基本としているが、生活の継続性から、系列のデイサービスの温泉を利用する場合もある。利用者の楽しみの機会を得る工夫が感じられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団を干したり、リネンの清潔、適度な換気に心がけている。安心して眠れるよう精神の刺激にならないような対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理がされており、目的、効能について周知されている。症状変化の確認もおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞の好きな人には新聞を読んでいただき、手芸の好きな人には手芸を、歌の好きな人には歌を、と生活に楽しみがもてるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩の他、ダリア、バラ、桜と季節ごとの花見に行ったり、外出したりの支援。買物同行の支援をしている。	季節感が感じられるような外出支援を常時検討し実行され利用者の楽しみのひと時となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かりを希望されれば、購入代行をする。又は、本人が買物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代読、電話かけの支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、ソファが置いてあり、腰掛けて外を眺めることができる。常に温度の調整をおこない、季節感が味わえる花を飾り、居心地良く生活できる工夫をしている。	玄関から食堂・談話室のゆったりとした空間、中央の仕切りの一本柱が事務室との緊張をほぐしてくれる。自由にくつろげる談話室のソファからは、咲き誇る菊や畑仕事をする人の姿が見え、その向こうに、国道が走っている。利用者は思いおもいに時を過ごし、表情が明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	展望コーナーがあり、好きな時に自由に行かれ、利用者同士が会話をしたり、一人で外を眺めたりできる楽しみの場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が自由に写真を飾り、植物、花を置いて工夫している。居室の窓からは、大好きな山の景色が見えると喜ばれている。	中央のスペースを囲むように居室が配置され、居室のドアは色分けされたデザインとなっている。居室には本人の生活に結びついたものが置かれ、心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、床はカーペット、手すりもあり、転倒防止になっている。内部は広いので、ウオーカー、車椅子もゆったりと通れている。		